

第27期 中間事業報告書
2001年4月1日から2001年9月30日まで



BANPRESTO

27

INTERIM REPORT

株式会社 バンプレスト

証券コード:7854



代表取締役社長
伍賀 槌太

トップインタビュー

ごあいさつ

株主の皆様には、日頃からあたたかいご支援を賜り厚く御礼申し上げます。
 ここに当社グループの第27期上半期（2001年4月1日から2001年9月30日まで）の営業の概況についてご報告させていただきます。
 今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q 当中間期の業績全般の概況について

A 景気低迷により 厳しい事業運営を迫られる

伍賀 当中間期の日本経済は、これまで景気を下支えしてきた情報技術（IT）関連産業の減退を受け、企業収益が落ち込み、設備投資が減少したほか、個人消費も雇用不安を背景に低迷を続けるなど、景気は悪化の度合いを強めています。

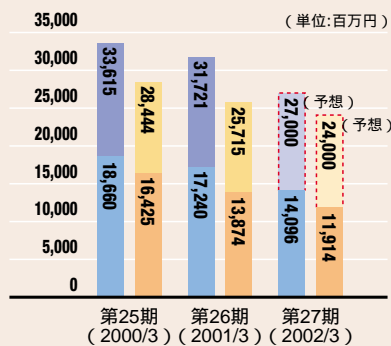
アミューズメント業界においては、一部のオペレーター*に回復の兆しが見られるものの、消費低迷やオペレーターの投資縮小による買い控えは依然として続いており、厳しい業界状況を脱していません。

また、家庭用ゲームソフト業界においては、新型ゲーム機の発売が続き、ゲームソフト供給については、より効率的な開発投資が求められています。

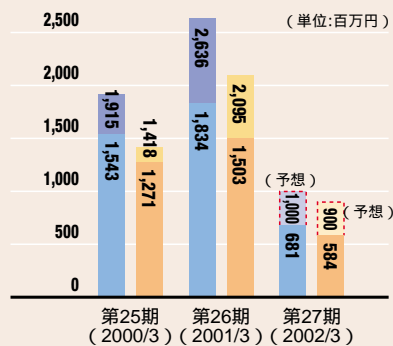
このような経営環境のもと、当社グループにおいては、市場環境の変化に即応した経営効率の向上とグループ総合力の強化を目的としてグループ会社の再編を行いました。まず、9月1日付でバラエティ雑貨事業を営む子会社(株)ユニ*オペレーター...アミューズメント施設運営者

連結 中間 通期
 単体 中間 通期

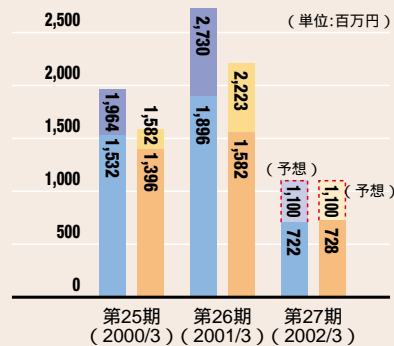
売上高



営業利益



経常利益



ファイブを吸収合併し、さらに声俳優養成スクール事業を営んできました子会社(株)ミューラスについても、業績の低迷と今後の成長性が見込めないとの判断から9月末をもって解散しました。また、当社においては、積極的なアミューズメント機器の開発や話題性のある景品の商品化、ネットワークサービス事業による景品需要の拡大などに努力してきました。しかしながら、当社グループを取り巻く厳しい状況を克服するには至らず、中核事業であるアミューズメント事業およびその他事業において前年同期比で大幅な減収減益となりました。

当中間期の連結売上高は140億9千6百万円（前年同期比18.2%減）経常利益は7億2千2百万円（前年同期比61.9%減）中間純利益は5億9千5百万円（前年同期比46.2%減）となりました。

また、当社の単体売上高は、119億1千4百万円（前年同期比14.1%減）経常利益7億2千8百万円（前年同期比54.0%減）中間純利益は4億3千4百万円（前年同期比48.4%減）となりました。

中間配当金については、株主の皆様に対する利益還元重視の基本方針のもと、例年通り1株につき15円とさせていただきます。

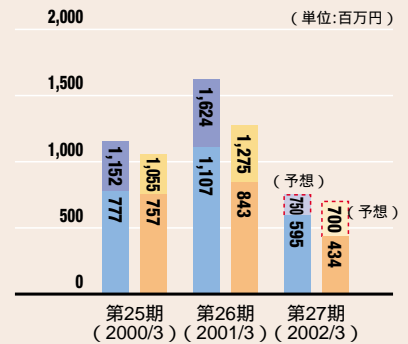
Q 合併に伴うユニファイブ事業部新設について

バラエティ雑貨・ホビー商品を 第3の事業の柱に

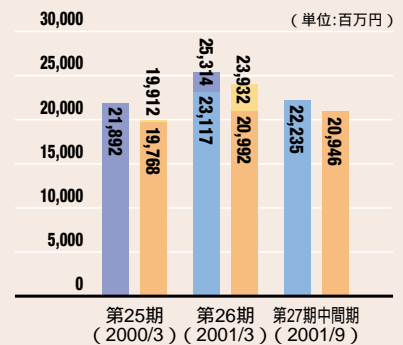
伍賀 先ほど申し上げた通り子会社であった(株)ユニファイブを吸収合併し、当社内にユニファイブ事業部を新設しました。同社はこれまで、人気キャラクターを使ったキーホルダーや携帯アクセサリグッズ、ZIPPO喫煙具コレクション、フィギュア、ホビー商品などさまざまな商品の企画・開発・販売を行ってきました。今回の合併の目的は、キャラクタービジネス市場での競争力を高めるため、物販事業を当社に一元化することによって、パンプレストのもつ開発から生産までのルートを有効活用し、業務の効率化を図ることにあります。今後、この事業をアミューズメント事業、家庭用ゲームソフト事業に続く第3の事業の柱とするため、事業基盤の強化を行っていきます。



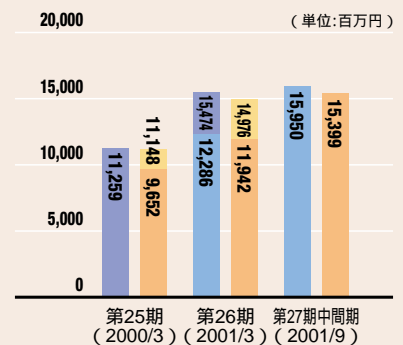
中間(当期)純利益



総資産



株主資本



グループの 企業価値の向上



Q 通期の見通しと中長期的な会社の経営戦略について

A 話題性、新規性の高い 商品開発に注力

伍賀 IT関連需要の低迷を背景に、民間設備投資や個人消費は引き続き低水準で推移することが予想されます。また、米国同時多発テロ事件により世界的に景気回復の遅れが懸念されるなど構造的不況の色合いが深まり、情勢はさらに厳しさを増すものと思われます。

アミューズメント事業においても、回復の兆しはあるものの予断を許さない状況が続くものと予想され、当社グループとしては、キャラクター・マーチャンダイジングを積極的に展開し、話題性・新規性の高いアミューズメント機器・景品の開発、より一層お客様のニーズに機敏に応えられるサービス体制の構築を行い、機器・景品需要の拡大を図っていきます。

また、家庭用ゲームソフト事業においては、多くのファンの方のご支持を得ている「スーパーロボット大戦」シリーズの展開に加え、新たな柱となるソフトの提供に努め、各プラットフォームへの効率的な開発投資を行ってまいります。

その他事業においても、この6月に本格的に稼働を開始したインターネットアミューズメント事業「BigEntertainment」の事業基盤の強化、バラエティ雑貨事業の基盤確立などに取り組んでいきます。

なお、通期の連結売上高は270億円（前年同期比14.9%減）、経常利益11億円（前年同期比59.7%減）、当期純利益7億5千万円（前年同期比53.8%減）を予想しています。

変化の激しい時代にあって、心にうるおいと安らぎを与えるエンタテインメントビジネスへの需要はますます高まっていくものと思われます。当社グループは、「夢と感動」を創造する企業として、「愛ディアYOUモア」を提案し心豊かな社会づくりに貢献していきます。

企業価値と株主価値の最大化を目指して利益重視の効率経営をすすめるため、ROA（総資産利益率）とROE（株主資本利益率）を主たる経営指標として、それぞれ10%以上を目標とします。

また、前号で株主アンケートを行いましたところたくさんのご回答をいただきありがとうございました。皆様から、当社のIR活動や株価に対するご意見をいただき、積極的な情報開示の必要性とともに、たえず挑戦を続けることによって成長を続け、企業価値の向上に努めたいと思っております。

Q 利益還元について

A 株主優待制度を新設 本年はキャラクターぬいぐるみを クリスマスプレゼント

伍賀 株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要課題の一つであると認識し、業績等の推移を視野に入れつつ積極的な利益還元を図るため、財務体質と経営基盤強化に努めています。

株主利益の最大化を目指すために最も重要なことは業績の向上にあります。企業価値の最大化を目指すためには、内部留保金を活用して的確な投資を行うとともに、改善課題に迅速に対処することが大切です。当社は一段と変化のスピードを上げ、株主の皆様・お客様・従業員に対して継続的な利益還元ができる力強い企業体質づくりを行っていきます。

株式の流動性向上と投資家層の拡大を意図した株式分割と売買単位の引下げ

本年3月31日を基準日として5月18日付で当社額面普通株式1株を1.2株に分割（無償交付）しました。また、8月1日付をもって、当社株式の売買単位を1,000株から100株へ引下げました。

株主優待制度を新設

毎年9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載されている株主（100株以上所有の株主）の皆様に対し、当社商品をクリスマスプレゼントとして、年1回12月に贈呈することとしました。

私自身、株主優待制度は、夢のあるものにしたいと早くから考えていました。当社の主力事業は、アミューズメント用プライズ景品ビジネスであり、この分野でシェアトップの地位を確立しています。当社へのご理解を深めていただくには、まず株主の皆様にも当社商品を直接手にとっていただくことが最も効果的であると考え、本年度はお子様から大人の方まで幅広い層の方に親しまれるキャラクターぬいぐるみを株主優待商品に選定しました。



100株以上1,000株未満ご所有の株主様

「世界名作劇場 しっぽがふさふさラスカル」



パッケージサイズ（高さ22cm×幅20cm×奥行き20cm）

1,000株以上ご所有の株主様

「楽しいムーミン家 ムーミン＆フロレンス
スーパーDXぬいぐるみ」セット



パッケージサイズ（高さ47cm×幅60cm×奥行き32cm）

Topics of BANPRESTO

トピックス

インターネット事業

BigEntertainment

インターネットを活用したキャラクターアミューズメント施設運営事業「BigEntertainment（ビッグエンタテインメント）」を、新規事業として6月5日よりスタートいたしました。当サイトには「プライズパーク」「スーパーロボットタワー」「メディアセンター」「コントタウン」の4つのコンテンツがあり、その主なものは、WEB上のプライズゲームを実際のゲーム機と同じように操作して景品獲得にチャレンジができ、獲得した景品を指定場所に配送することができる「プライズパーク」とスーパーロボットたちを用いたメールソフトで対戦バトルができる当社オリジナル商品「スーパーロボットバトルメーカー」の販売をしている「コントタウン」です。本事業は当社のキャラクターアミューズメントビジネスを新たにインターネット上で展開するものです。



<http://www.big-e.ne.jp/>

家庭用ゲームソフト

スーパーロボット大戦A (ゲームボーイアドバンス用ソフト) リアルロボットレジメント (プレイステーション2用ソフト)



当社はゲームボーイアドバンス用ソフト第1弾として「スーパーロボット大戦A」を9月21日に発売いたしました。完全オリジナルストーリーに加え、これまでの「スーパーロボット大戦」シリーズでお馴染みのキャラクターから、比較的最近のキャラクターが登場することで従来のファンや若いユーザーにも楽しめる内容の話題性満載のシミュレーションRPGとなっております。また、プレイステーション2用ソフト第1弾として「リアルロボットレジメント」を8月9日に発売いたしました。プレイステーション2のハードの特徴である高性能、高品質を最大限に活用してスーパーロボットをリアルタイムで操作するアクションゲームとなっております。当社は今後も「スーパーロボット大戦」シリーズを効率的な開発投資を行いつつ、各プラットフォームへ拡充してまいります。

アミューズメント景品

ビッグサイズ景品のシリーズ化

当社では年間約360種類にも及び幅広いアミューズメントプライズ景品の展開を行っておりますが、新しい商品展開として大型景品（ビッグサイズ景品）を発売いたしました。最大55cmもある「ビッグサイズソフビフィギュア」や「スーパーデラックスぬいぐるみ」を今期、商品ラインナップの目玉商品としてシリーズ化し、市場に投入いたしました。大型景品（ビッグサイズ景品）はアミューズメント施設のクレーンゲーム内等でキャラクターの持つ世界観や新規性・話題性・迫力・リアルさを最大限にお客様にアピールすることのできる顧客訴求のある商品となり、アミューズメント市場の活性化に寄与することができました。パンプレストは今後も定番アイテムとして大型景品 ビッグサイズ景品 を市場に展開してまいります。



アミューズメント施設

きゃらんどプラザ東戸塚店

「きゃらんど」は当社がファミリーアミューズメント施設として展開する「キャラクターランド」のことであり、人気キャラクターを使用したアミューズメント機やキッズライド（子供用乗用機）、プライズマシン、遊具類等を設置してファミリーが楽しんで遊べる施設を展開しております。当社は、この「きゃらんど」を現在都内近郊に3店舗展開しており、店舗運営によって得られるお客様の声やデータを、当社の企画、開発にもいかしています。また「きゃらんどプラザ東戸塚店」は「顧客拡大賞」に選ばれるなどショッピングモールの集客の中核テナントの一つとしての役割を担っており、ファミリーエンタテインメントを今まで以上にアピールし、集客力を高めるため11月下旬より店舗売り場面積を約2倍に拡張し、リニューアルいたしました。今後も大型複合商業施設へファミリー向けゾーンを積極的に展開してまいります。

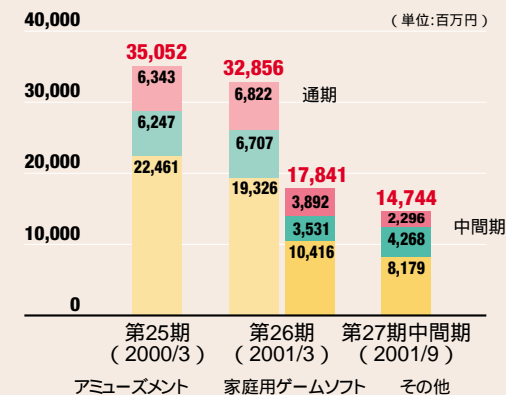


Business Development

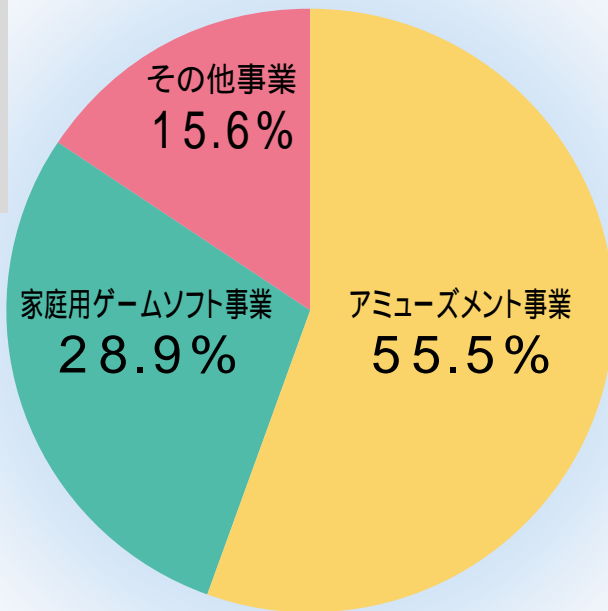
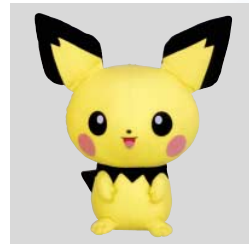
事業展開

バンプレストグループは、キャラクターマーチャンダイジングを機軸に「アミューズメント事業」、「家庭用ゲームソフト事業」、「その他事業」の3つの事業領域において事業展開を行っております。

セグメント別売上高の推移



(注) セグメント別売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。



セグメント別連結売上高構成比(2001/9)

アミューズメント事業

アミューズメント事業におきましては、施設運営による収益は堅調に推移いたしました。アミューズメント機器については低価格帯機器(「取りぶるジャンプ」等)の投入により需要喚起に努めてまいりましたが、オペレーター*の積極的な購買に結びつけることはできませんでした。また景品においても大型景品を中心に新規性・話題性の高い商品開発に努めてまいりましたが、厳しい市場環境を打破するには至りませんでした。

その結果、当中間期の売上高は81億7千9百万円(前年同期比21.5%減)、営業利益は7億3千7百万円(前年同期比47.9%減)となりました。

*オペレーター...アミューズメント施設運営者



家庭用ゲームソフト事業

家庭用ゲームソフト事業におきましては、ゲームボーイ用ソフトの「From TV animation ONE PIECE 夢のルフィ海賊団誕生!」、プレイステーション用ソフトの「サモンナイト2」等が好評を博し売上は好調に推移しましたが、営業利益においては前年同期を上回ることができませんでした。

その結果、当中間期の売上高は42億6千8百万円(前年同期比20.9%増)、営業利益は5億1千2百万円(前年同期比36.3%減)となりました。



その他事業

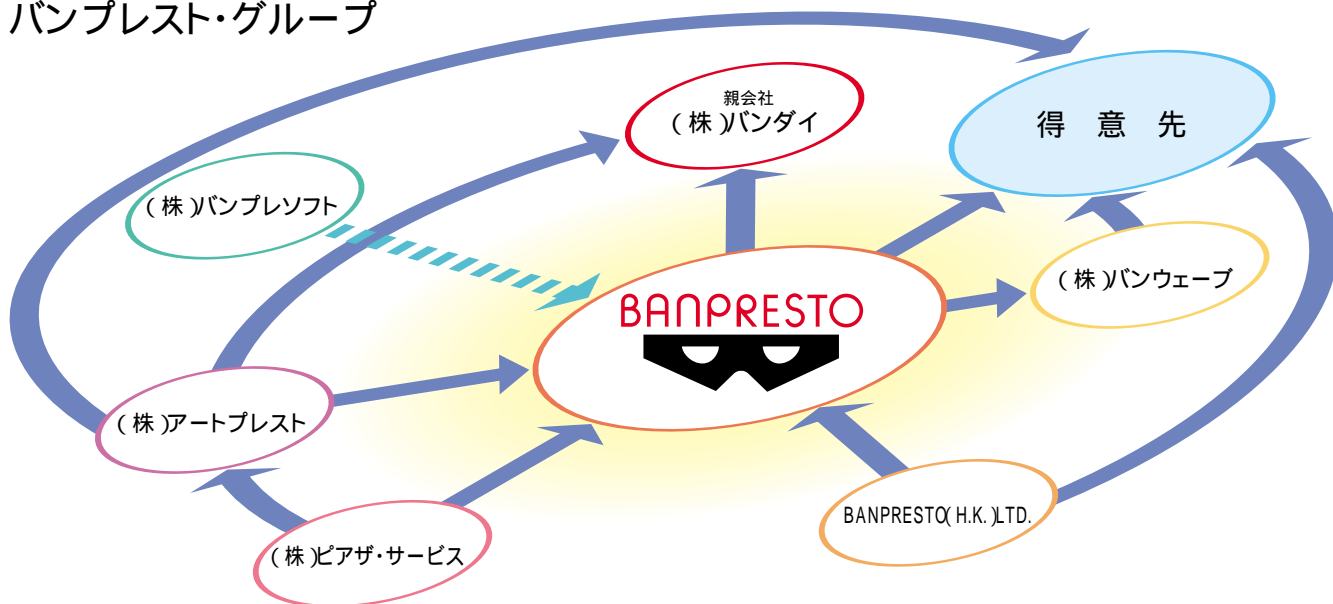
その他事業におきましては、BANPRESTO(H.K.)LTD.における米国玩具メーカー向け商品のOEM販売が終了した後に新たなOEM商材を軌道にのせることができず減収となりました。また、当中間期に立ち上げたネットワークサービス事業への戦略投資の成果が当中間期に表れていないことが減益の主たる要因であります。

その結果、当中間期の売上高は22億9千6百万円(前年同期比41.0%減)、営業損失は4億5千7百万円(前年同期比87.6%増)となりました。



BANPRESTO Group

バンプレスト・グループ



バンプレストグループは当社および連結子会社4社(国内3社、海外1社)、非連結子会社1社(国内1社)により構成されており、グループ各社がそれぞれの事業領域において、自社の特徴をいかして高い競争力を持ち、それぞれの役割を効果的に活用することでさらに発展してゆくことを目指しています。

バンプレストグループ

社名	事業内容	資本金(百万円)	持株比率(%)
連結子会社 (株)バンプレソフト	家庭用ゲームソフトの企画、開発	100	100.00
(株)アートプレスト	各種印刷および印刷物の企画デザイン、玩具等の企画、開発、販売	30	55.00
BANPRESTO (H.K.) LTD.	アミューズメント機器・景品・玩具等の生産管理および販売	32 (百万香港ドル)	100.00
(株)バンウェーブ	アミューズメント機器・景品等の販売 当社の主力販売代理店	300	100.00
非連結子会社 (株)ピアザ・サービス	ビルの保守管理・警備・清掃	35	100.00

(株)バンプレストは2001年9月1日をもって(株)ユニファイブを吸収合併いたしました。
 (株)ミューラスは2001年9月30日をもって解散いたしました。

Consolidated Financial Statements

中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科 目	当中間連結会計期間末 (2001年9月30日現在)	前中間連結会計期間末 (2000年9月30日現在)	前連結会計年度 (2001年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	14,814	16,628	18,463
現金及び預金	4,230	3,570	5,176
受取手形及び売掛金	5,903	6,488	7,286
有価証券	2,057	3,503	2,755
たな卸資産	990	761	476
その他	1,686	2,362	2,828
貸倒引当金	53	57	60
固定資産	7,420	6,489	6,850
有形固定資産	4,552	4,789	4,685
建物及び構築物	3,380	3,442	3,511
その他	1,172	1,346	1,174
無形固定資産	214	79	151
投資その他の資産	2,652	1,620	2,014
投資有価証券	1,773	663	943
長期貸付金	17	19	18
繰延税金資産	293	154	333
その他	626	1,062	939
貸倒引当金	57	279	220
資産合計	22,235	23,117	25,314
負債の部			
流動負債	5,692	10,569	9,556
支払手形及び買掛金	3,221	3,855	3,395
短期借入金	882	4,315	3,930
賞与引当金		259	155
その他	1,587	2,139	2,075
固定負債	479	162	174
長期借入金	314		
退職給付引当金	23	15	20
役員退職慰労引当金	119	113	122
連結調整勘定	4	13	10
その他	17	20	21
負債合計	6,171	10,732	9,731
少数株主持分			
少数株主持分	113	98	108
資本の部			
資本金	3,020	2,000	3,020
資本準備金	2,224	598	2,224
連結剰余金	10,280	9,546	9,943
その他有価証券評価差額金	601	169	245
為替換算調整勘定	119	27	42
自己株式	294		0
資本合計	15,950	12,286	15,474
負債、少数株主持分及び資本合計	22,235	23,117	25,314

中間連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	当中間連結会計期間 (2001年4月1日から 2001年9月30日まで)	前中間連結会計期間 (2000年4月1日から 2000年9月30日まで)	前連結会計年度 (2000年4月1日から 2001年3月31日まで)
売上高	14,096	17,240	31,721
売上原価	8,189	10,461	19,258
売上総利益	5,907	6,779	12,462
販売費及び一般管理費	5,225	4,944	9,825
営業利益	681	1,834	2,636
営業外収益	77	106	181
営業外費用	36	45	88
経常利益	722	1,896	2,730
特別利益	115	123	337
特別損失	74	37	71
税金等調整前中間(当期)純利益	763	1,982	2,996
法人税、住民税及び事業税	319	1,053	1,497
法人税等調整額	162	185	142
少数株主利益	11	7	17
中間(当期)純利益	595	1,107	1,624

中間連結剰余金計算書

(単位: 百万円)

科 目	当中間連結会計期間 (2001年4月1日から 2001年9月30日まで)	前中間連結会計期間 (2000年4月1日から 2000年9月30日まで)	前連結会計年度 (2000年4月1日から 2001年3月31日まで)
連結剰余金期首残高	9,943	8,661	8,661
連結剰余金減少高	258	222	342
配当金	224	210	330
役員賞与	33	12	12
中間(当期)純利益	595	1,107	1,624
連結剰余金中間期末(期末)残高	10,280	9,546	9,943

Statements of Cash Flows

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間連結会計期間 (2001年4月1日から 2001年9月30日まで)	前中間連結会計期間 (2000年4月1日から 2000年9月30日まで)	前連結会計年度 (2000年4月1日から 2001年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前中間(当期)純利益	763	1,982	2,996
減価償却費	266	293	586
連結調整勘定償却額	5	1	2
諸引当金の増減額	161	42	103
受取利息及び受取配当金	39	30	61
支払利息	24	33	62
有価証券売却損益等	78	25	184
為替差損益	5	4	6
固定資産売却損益等	30	11	25
関係会社株式売却損益			9
前渡金の増減額	318	158	66
売上債権の増減額	1,403	59	835
たな卸資産の増減額	513	206	78
仕入債務の増減額	208	324	164
未払金の増減額	72	35	41
未払消費税等の増減額	68	83	75
役員賞与の支払額	35	14	14
その他	238	351	191
小 計	1,866	2,253	2,639
利息及び配当金の受取額	42	30	59
利息の支払額	27	32	57
法人税等の支払額	950	607	1,150
営業活動によるキャッシュ・フロー	931	1,643	1,490
投資活動によるキャッシュ・フロー			
定期預金の預入による支出	69	26	1,550
定期預金の払戻による収入	1,621		
抵当証券の取得による支出			1,000
抵当証券の売却による収入	1,000		
有形固定資産の取得による支出	126	237	414
有形固定資産の売却による収入	19	27	28
無形固定資産の取得による支出	87	15	102
無形固定資産の売却による収入	0		
投資有価証券の取得による支出	398	30	1,026
投資有価証券の売却による収入	225		1,092
関係会社株式の売却による収入			1
貸付金の回収による収入	0	7	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,186	274	2,964
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入れによる収入	60		
短期借入金の返済による支出	410	300	355
長期借入れによる収入	1,000		
長期借入金の返済による支出	3,382	275	605
自己株式の取得による支出	302		0
自己株式の売却による収入	7		
株式の発行による収入			2,646
配当金の支払額	223	210	330
少数株主への配当金の支払額	4	5	5
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,255	790	1,349
現金及び現金同等物に係る換算差額	44	16	53
現金及び現金同等物の増減額	92	594	71
現金及び現金同等物の期首残高	6,284	6,355	6,355
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	6,191	6,950	6,284

当中間期のキャッシュ・フローの状況

当中間期末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、借入金の返済による支出等により前連結会計年度末に比べて9千2百万円減少(1.5%減)し、61億9千1百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当中間期の営業活動による資金の増加は前中間期比7億1千1百万円減少の9億3千1百万円となりました。これは主に、売上債権の減少による収入14億3百万円はあったものの、税金等調整前中間純利益が7億6千3百万円(前年同期比61.5%減)に減少したこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当中間期の投資活動による資金の増加は前中間期比24億6千万円増加の21億8千6百万円となりました。これは主に、大口定期預金および抵当証券の満期による収入26億2千1百万円等によるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当中間期の財務活動による資金の減少は前中間期比24億6千4百万円増加の32億5千5百万円となりました。これは主に、長期・短期借入金の返済による支出27億3千2百万円、ストックオプションのための自己株式取得による支出2億9千4百万円等によるものです。

Non-Consolidated Financial Statements

中間貸借対照表

(単位: 百万円)

科 目	当中間期末(第27期) (2001年9月30日現在)	前中間期末(第26期) (2000年9月30日現在)	前期末(第26期) (2001年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	13,331	14,067	16,669
現金及び預金	2,598	1,688	3,506
受取手形	2,133	2,990	2,523
売掛金	4,004	3,076	4,520
有価証券	2,057	3,503	2,755
たな卸資産	769	464	334
前渡金	1,217	1,065	1,409
自己株式			0
その他	581	1,319	1,664
貸倒引当金	30	41	46
固定資産	7,615	6,924	7,262
有形固定資産	4,027	4,276	4,154
建物	2,894	2,978	3,028
その他	1,133	1,298	1,126
無形固定資産	201	66	135
投資その他の資産	3,385	2,581	2,972
投資有価証券	1,773	663	907
その他	1,925	2,330	2,488
貸倒引当金	312	412	423
資産合計	20,946	20,992	23,932
負債の部			
流動負債	5,140	8,964	8,857
支払手形	1,001	1,610	1,184
買掛金	2,106	1,555	2,399
短期借入金	100		
1年内返済長期借入金	707	3,735	3,405
その他	1,224	2,062	1,868
固定負債	406	86	98
長期借入金	314		
その他	91	86	98
負債合計	5,547	9,050	8,955
資本の部			
資本金	3,020	2,000	3,020
資本準備金	2,224	598	2,224
利益準備金	152	105	117
剰余金	9,696	9,068	9,369
任意積立金	8,300	7,400	7,400
別途積立金	8,300	7,400	7,400
中間(当期)未処分利益	1,396	1,668	1,969
(うち中間(当期)純利益)	(434)	(843)	(1,275)
その他有価証券評価差額金	601	169	245
自己株式	294		
資本合計	15,399	11,942	14,976
負債及び資本合計	20,946	20,992	23,932

中間損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	当中間期(第27期) (2001年4月1日から 2001年9月30日まで)	前中間期(第26期) (2000年4月1日から 2000年9月30日まで)	前期(第26期) (2000年4月1日から 2001年3月31日まで)
売上高	11,914	13,874	25,715
売上原価	7,148	8,196	15,502
売上総利益	4,766	5,678	10,213
販売費及び一般管理費	4,182	4,174	8,118
営業利益	584	1,503	2,095
営業外収益	168	117	204
営業外費用	24	37	76
経常利益	728	1,582	2,223
特別利益	128	122	337
特別損失	100	248	350
税引前中間(当期)純利益	756	1,456	2,210
法人税、住民税及び事業税	210	947	1,336
法人税等調整額	111	334	402
中間(当期)純利益	434	843	1,275
前期繰越利益	791	825	825
合併引継未処分利益	169		
中間配当額			120
中間配当に伴う利益準備金積立額			12
中間(当期)未処分利益	1,396	1,668	1,969

当中間期の1株当たりの中間配当金は、15円にて実施させていただきます。

中間純利益 434百万円

中間配当金総額 158百万円

会社概要

会社名 株式会社バンプレスト
設立 1977年4月
資本金 3,020百万円
従業員数 201名
事業内容 アミューズメント機器および景品の企画、開発、販売
 アミューズメント施設の運営
 家庭用ゲームソフトの企画、販売
 パラエティ雑貨・玩具等の企画、開発、販売 等
事業所 本社
 〒271-0092 千葉県松戸市松戸1230番地の1 ピアザ松戸
 TEL: 047-367-7388(社長室広報課直通)
 FAX: 047-367-7145
 本店所在地およびコンシューマー事業部・ユニファイブ事業部
 〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町10番8号
 タキトミビル2階

店舗一覧(アミューズメント施設)

東京ガリバー 松戸店 千葉県松戸市松戸1230-1 ピアザ松戸
 TEL: 047-366-6633
リリパピタ東京ガリバー 東大宮店 埼玉県さいたま市丸ヶ崎1096-1
 TEL: 048-688-6622
東京ガリバー みずほ台店 埼玉県富士見市東みずほ台1-4-10
 TEL: 0492-54-3905
リリパピタ東京ガリバー 戸田店 埼玉県戸田市美女木8-2-6
 TEL: 048-422-7031
東京ガリバー 新潟店 新潟県新潟市出来島401
 TEL: 025-281-2162
きゃらんど 東京ガリバー 青梅店 東京都青梅市新町9-2020
 TEL: 0428-32-5881
きゃらんど 松戸店 千葉県松戸市松戸1230-1 ピアザ松戸
 TEL: 047-367-8407
きゃらんどブラザ 東戸塚店 神奈川県横浜市戸塚区品濃町537-1
 TEL: 045-828-2487
きゃらんどブラザ 小田原店 神奈川県小田原市中里208 ダイナシティ ウエストモール4F
 TEL: 0465-49-8178

東京ガリバー
 ゲーム機を中心としたアミューズメント施設
 きゃらんど
 遊具などを設置したファミリー・幼児向けアミューズメント施設

役員



代表取締役社長
伍賀 槌太



専務取締役
中川 和昭



常務取締役
田中 英利



常務取締役
前島 悠二



常務取締役
山浦 康彦



取締役
根本 忠正



取締役
今成 忠志



取締役
灘 俊宏



常勤監査役
小俣 隆夫



監査役
加藤 興平



監査役
自閑 博巳

(注) 監査役のうち、加藤興平、自閑博巳の両名は「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

株式の状況

会社が発行する株式の総数	32,000,000株
発行済株式の総数	10,800,000株
株主数	1,416名

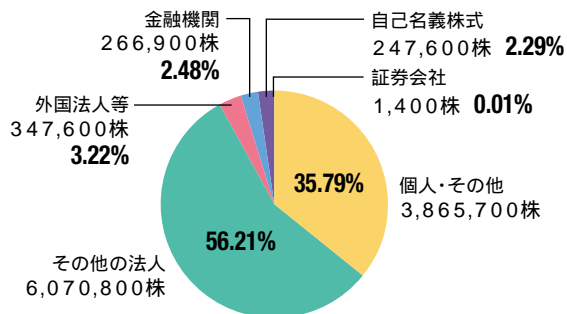
大株主

株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
株式会社 バンダイ	5,508,000	51.00
杉浦幸昌	600,900	5.56
パンプレスト従業員持株会	508,108	4.70
つばさセキュリティーズアジアリミテッド (常任代理人 つばさ証券株式会社)	310,400	2.87
中原外則	125,600	1.16
株式会社 三井住友銀行	110,000	1.01
株式会社 三和銀行	110,000	1.01
前島悠二	66,000	0.61
安田則雄	61,200	0.56
株式会社 創通エージェンシー	61,000	0.56

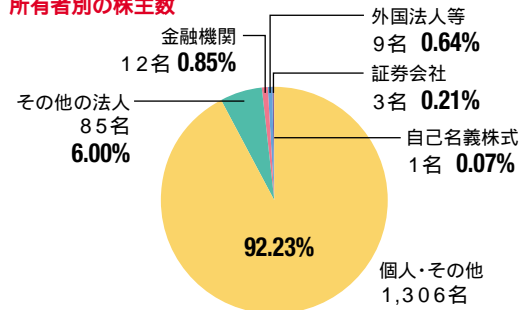
(注) 1. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。
 2. 当社は自己株式247,600株(当社取締役および使用人に譲渡するために取得)を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

株主分布状況

所有者別の株式数



所有者別の株主数



株主アンケートについて

第26期事業報告書のアンケートに、109名の方からご回答をお寄せいただき、誠にありがとうございました。
 アンケートの結果として、当社の情報開示で強化すべきものとしては「情報発信媒体の定期発行」を挙げる方が最も多く、ついで「IRサイトの充実」となっており、また、知りたい情報としては、「経営トップのビジョン」「経営情報」「財務業績情報」となっておりました。
 皆様からいただきました貴重なご意見を今後の経営に反映できますよう、努力を重ねてまいりたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

株 主 メ モ

- 決 算 期** 毎年3月31日
- 定時株主総会** 毎年6月
- 基 準 日** 毎年3月31日
その他必要があるときは予め公告をして定めます。
- 配当金受領株主
確 定 日** 利益配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
- 1単元の株式数** 100株
- 名義書換代理人** 〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号
東洋信託銀行株式会社
- 同 事 務 取 扱 所
(お問い合わせ先)** 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
東洋信託銀行株式会社 証券代行部
Tel : 03-5683-5111
(お手持用紙ご請求フリーダイヤル)
本店証券代行部 0120-24-4479
大阪支店証券代行部 0120-68-4479
- 同 取 次 所** 東洋信託銀行株式会社 全国各支店
- 上場証券取引所** 東京証券取引所 市場第二部
- 公告掲載新聞名** 日本経済新聞
- 株 主 優 待** 毎年9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に
記載された株主(100株以上所有株主)の皆様に対し、
12月に当社商品をクリスマスプレゼントとして
お届けいたします。(P4参照)

(お知らせ)

名義書換代理人東洋信託銀行株式会社は、平成14年1月15日をもって商号をUFJ信託銀行株式会社(登記上は、ユーエフジェイ信託銀行株式会社)に変更いたします。

配当金はお早めにお受け取りください。
今回お届けした郵便振替支払通知書による配当金のお受け取り期間は平成14年1月9日までとなっております。郵便振替支払通知書をお持ちになってお近くの郵便局で、お早めにお受け取りください。

お受け取り期間を過ぎたら...

お受け取り期間を過ぎますと、郵便局でのお受け取りができなくなります。郵便振替支払通知書の裏面に、お受け取り方法をご指定のうえ、東洋信託銀行株式会社証券代行部までご郵送ください。

郵便振替支払通知書を紛失された場合は...

東洋信託銀行株式会社までご連絡ください。なお、未払いの確認と再発行の手続きのため、お支払いまで多少日数を必要としますので、あらかじめご了承ください。

<http://www.banpresto.co.jp/>

2001年10月に当社のホームページをリニューアルいたしました。IR情報もご覧になれますので、ぜひ一度アクセスしてください。



お問い合わせ先

〒271 0092 千葉県松戸市松戸1230番地の1 ピアザ松戸
株式会社 バンプレスト 社長室広報課
Tel:047 367 7388(直通) Fax:047 367 7145